

# ご近所のお医者さん

  
498  

内藤病院長 内藤方克さん 一大阪市西区

## 終末期の介護

あなた自身に介護が必要となったとき、あなたは施設や病院でのケアを希望しますか。それとも自宅で過ごすことを希望しますか。日本の高齢者の数はこれからますます増えていきます。「人生の終末期において医療と介護をどのように受けるか」は重要なテーマとなつて

きます。介護を受ける方

法としては、通所介護▽訪問介護▽老人ホーム、高齢者専用サービス機能付き住宅、老健施設—などへの入所介



## 負担軽減 支援活用を

護があります。医療では、訪問診療をはじめとする在宅医療、通院や入院などです。私の経験では、最初はご自宅を希望しますが、人生の終末期に近づくにつれ、病院や施設を希望される方が圧倒的に多いです。理由としては、病気が原因で寝たき

りや歩行困難になったり、オムツが必要になったりするからです。食事面でも、えん下機能が低下して自分で食事が食べられなくなり、さらにひどいときは、経管栄養や胃ろうからの注入食になるなど、家族の負担が大変なものになるからです。ただし、施設に入れば家族の負担は減りますが、ご本人が家族との日常的な楽しみを共有し難くなります。自分が介護を受ける側の立

場になったとしたら、「家族の負担はなりたくない。だけど、孤独なものつらい」という気持ちになるのではないだろうか。

全てが満足のいく形がベストですが、人が晩年を迎えるのはとても大変で、うまくいかないことも多いです。介護は決して本人だけの問題ではなく、精神的にも肉体的にも途方もない、想像以上の大変さに初めて向き合い、

介護する側が参ってしまいう現実を度

々目の当たりにしてきました。ですから、家族皆が明るく前向きに過ごせるよう、さまざまな施設や支援を臨機応変に早い段階から活用し、負担を少なくしていく必要性を私は感じています。

介護する側もされる側も、精神的・肉体的にへトへトにならないことが大切です。ひとりで悩まずにぜひ専門医に相談してみてください。